

## チャレンジ！！オープンガバナンス 2020 市民／学生応募用紙

自治体提示の地域課題タイトル（注1）	No. -（事務局用）	タイトル 郷土に愛着をもって共に創り上げる多文化共生のまち	自治体名 福井県 越前市
チームがつけたアイデア名（注2）（公開）	増え続ける外国人、国籍関係なく助け合う Well-being なまちづくり ～リアルとデジタルからの5つのアプローチ～		

（注1）地域課題タイトルは、COG2020 サイトの中に記載してある応募自治体提示の地域課題タイトルを記入してください。

（注2）アイデア名は各チームで独自にアイデアにふさわしい名前を付けてください。

### 1. 応募者情報 赤字部分は削除して該当の番号を記入

チーム名（公開）	越前市未来計画隊		
チーム属性（公開）	1. 市民、2. 市民／学生混成、3. 学生	<b>3</b>	
メンバー数（公開）	5名		
代表者（公開）	服部いくみ		
メンバー（公開）	加藤菜摘子 松山果鈴	釣部ひかる 井戸直登	

#### **【注意書き】※ 必ず応募前にお読みください。**

<応募の際のファイル名と送付先>

1. 応募の際は、ファイル名を COG2020\_応募用紙\_具体的チーム名\_該当自治体名にして、以下まで送付してください。東京大学公共政策大学院の COG2020 サイトにある応募受付欄からもアクセスできます。admin\_cog2020@pp.u-tokyo.ac.jp

<応募内容の公開>

2. アイデア名、チーム名、チーム属性、チームメンバー数、代表者と公開に同意したメンバー氏名、「アイデアの説明」は公開されます。
3. 公開条件について：  
「アイデアの説明」でご記入いただく内容は、クリエイティブ・コモンズの CC BY（表示）4.0 国際ライセンスで、公開します。ただし、申請者からの要請がある場合には、CC BY-NC（表示—非営利）4.0 国際ライセンスで公開しますので、申請の際にその旨をお知らせください。いずれの場合もクレジットの付与対象は応募したチームの名称とします。  
（具体的なライセンスの条件につきましては、<https://creativecommons.org/licenses/by/4.0/legalcode.ja>、および、<https://creativecommons.org/licenses/by-nc/4.0/legalcode.ja> をご参照ください。また、クリエイティブ・コモンズの解説もあります。<https://creativecommons.jp/licenses/>）
4. 上記の公開は、内容を確認した上で行います。（例えば公序良俗に違反するもの、剽窃があるものなどは公開いたしません）
5. この応募内容のうち、「自治体との連携」は、非公開です。ただし、内容に優れた今後の参考になりうると判断したものは、公開審査後アドバイスの段階で相談の上公開することがあります。

<知的所有権等の取扱い>

6. 「アイデアの説明」中に、応募したチームで作成・撮影したものではない文章、写真、図画等を使用する場合、その知的所有権を侵害していないことを確認してください。具体的には、法令に従った引用をするか、知的所有権者の許諾を取得し、その旨を注として記載してください。「自治体との連携」中も同様をお願いします。
7. 「アイデアの説明」中に、人が写りこんでいる写真を使用している場合、使用している写真に写りこんでいる人の肖像権またはプライバシーを侵害していないことを確認してください。

<チームメンバー名簿>

チームメンバーに関する情報を最終ページに記載して提出してください。（2. の扱いによる代表者氏名を除き、他のメンバーに関する情報は本人の同意があるものを除き COG 事務局からは非公開です。詳細は最終ページをご覧ください。）

アイデアの説明全体が肖像権・著作権等を侵害していないことの確認	○
---------------------------------	---

**（1）アイデアの内容、（2）アイデアの理由、（3）実現までの流れ、の三項目に分けて記入してください。**

## 2. アイデアの説明（公開）

### (1) アイデアの内容（公開）

必要に応じて図表を入れていただいて結構です。

#### (1) アイデアの内容（公開）

**アイデアは、これこれの課題解決のために、何をやる社会的な活動（サービス）なのか、**をわかりやすく示してください。これが将来実現した場合、**魅力的で新規性があり、実践したくなり、活用してみたいなる、**そしてその結果として、課題が解決される、そんな**ワクワク感のあるアイデア**を期待します。2 ページ以内でご記入ください。

##### <応募チームとして解決したい課題>

**災害時に不安を感じている外国人、AED の認知を広めて  
安心感のあるまち、国籍関係なくお互いに助け合えるまちへ**

##### <解決アイデアの内容>

私たちが住む越前市では外国人市民が増えており、特にブラジル人の割合が高い。私たちは SDGs の 11 番、17 番の視点から越前市を「ブラジル人とお互いに助け合って住み続けられるまち」にしたいと考えた。まず、私たちは越前市窓口サービス課のアドリアナさんに「よく受ける相談は災害時の不安に関すること」という話を聞いた。近年、日本では災害が増え、越前市では平成 30 年豪雪が記憶に新しい。こうした背景から、私たちは、SDGs 3 番「あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する」の視点も加え AED に着目した。AED は日常的にも被災現場においても救命装置としてよく知られており、私たちは学校で講習を受けた経験もある。至る所に設置されていることから日本人にはおなじみだが、ブラジル人には果たしてどうなのか。ブラジルでは 2015 年から AED の設置義務付けが始まり、AED の重要性は年々増しているとのことだが、越前市に住むブラジル人に AED は認知され、使える状況にあるのか。もし、AED を認知している外国人が増え、さらに使える人が増えたら災害時のブラジル人の不安解消にも繋がり、もしもの時も国籍関係なく助けることができる。互いが助け合えるまちにすることができる。

ブラジル人が AED を使えるようになるためには産学官が協力して問題解決に取り組む必要がある。私たちは、越前市役所（情報統計課、健康増進課、窓口サービス課、防災危機管理課、市民協働課）、南越消防組合、越前市国際交流協会、運転免許支援所と話し合い、企業からもアドバイスをもらいながら実現に向けた 5 つのアプローチをデザインした。デザインにあたり、**ネット上で手軽に確認出来る「デジタル」と、直接現場で確認する「リアル」**の 2 つの視点から見えていくこともポイントになってくる。それでは 5 つのアプローチについて詳しく説明していこう。

##### STEP①オープンデータの整備～AED の存在を可視化する～

まず、AED が越前市内の至る所に設置してあるということをブラジル人に知ってもらおう。知ってもらうことで安心感が増す。越前市の提供するオープンデータに AED の位置情報があるため、オープンデータを所管する情報統計課にポルトガル語版を作成し活用する提案を行った（図 1）。その結果、**まずは AED のオープンデータのポルトガル語版の作成を目指すことになり、**データ出典元の健康増進課も加わり検討を進めた。設置場所の名称や所在地などのポルトガル語への翻訳については、越前市国際交流協会に協力を依頼し、承諾を得た。このオープンデータを使って、どうやってブラジル人に AED の存在を可視化し認知してもらうのか、②で詳しく説明していく。



図 1:情報統計課との打ち合わせ

### ②AED マップを MyMap に掲載～デジタルで手軽に～

私たち越前市に住む日本人は、市役所が提供している「えっつぷ」というアプリや「ぐるぐるマップ」など市が提供するメディアを通して情報を得ることができます。しかし日本語が分からないブラジル人はそれらの使用が難しい。そこでブラジル人の情報源について窓口サービス課のアドリアナさんに質問したところ、ブラジル人は窓口サービス課が運営する越前市の「Facebook」と、移住の際にもらえる「移住者バック」が重要な情報源であることが分かった。しかし、Facebook にマップの常時掲載はできないため、ブラジル人がスマホでマップにアクセスしやすい方法について何度も話し合った（図 2）。その結果、外国人が利用しやすい GoogleMap の MyMap 機能で、市が AED 位置情報のマップを公開し、いつでも確認できるような仕組みで実現を目指すこととなった。また、その情報を印刷して「移住者バック」に同封することで、今後だれも取り残さずに渡すことができる。



図 2：MyMap についての会議

### ③AED 設置場所に看板とステッカーの設置～リアルで目で見てわかる～

MyMap で AED の存在を認知してもらっても、**現場で咄嗟の時に見つけられなければ意味が無い**。ポルトガル語訳した「AED があります」のステッカーを**設置施設**の入り口に、ポルトガル語訳した「AED 説明書がここにあります」の看板（図 3）を AED 本体付近に設置する。ステッカーと看板のデザインには窓口サービス課のアドリアナさんと越前市国際交流協会の中須賀さんにアドバイスを頂き、ブラジルでの表記となるように AED を DEA とした。また、イラストをいれる工夫としてユニバーサルデザインを意識したものを作成した。



図 3：AED 付近に設置する看板

しかし、場所が分かっても使い方を知らなければ使うことができない。使い方を教えるには言語の壁が課題となってくる。そこをどう解決していくのか④から説明していく。

### ④AED 付近にポルトガル語訳された説明書の設置～緊急時に使える工夫～

AED を所管する健康増進課にポルトガル語版の AED の説明書がないか確認してもらったところ、メーカー作成のもの存在するが、現契約では本体への同封は出来ないことが判明した。そこで私たちは AED メーカー作成のポルトガル語版の説明書をラミネートして AED 付近に掲示するというアイデアを提案し、実現に向けた協議を進めている。また、次年度からポルトガル語版説明書を AED の中に入れてもらえるよう働きかけていく。では最後に、実際に使える人を増やすための工夫を⑤で述べていく。

### ⑤AED の使い方動画の作成と持続的な運用～作るだけでなく使い続けるために～

ブラジル人が、見て聞いて分かる AED の使い方動画を作成することでブラジル人も AED を使うことができるようになる。しかし、大事なものは、いつどこでどのように動画を運用し、持続的に AED を学べる環境を構築するかである。

動画は、実際に私たちが南越消防組合の方から講習を受けて（図 4）作成する。動画を作成するにあたり南越消防組合が監修、越前市国際交流協会にナレーション、字幕の翻訳、監修を依頼し、協議しながら作成している。そして、この動画は作成後、防災危機管理課や南越消防組合の行う講習会、運転免許支援所（図 5）など持続的に講習会を行う組織で使って貰えるように話しを進めている。



図 4：講習会の様子



図 5：ブラジル人の免許取得



## 2. アイデアの説明（公開）

## (2) アイデアの理由（公開）

### (2) アイデアの理由（公開）

このアイデアを提案する理由について、それをサポートするデータを根拠として示しつつ 2 ページ以内で説明してください。ここではアイデアの必要性、効果を確認します。データとは、統計類などの数値データやアンケート・インタビュー・経験の記述、関連の計画、既存の施策などの定性データも広く含みます。データは出所を明らかにしてください。

#### 〈アイデアを提案する理由〉

##### ・越前市に外国人ってどれくらいいるの？

越前市総人口の約 **5%** が外国人である。これは全国平均の 2% と比較してもかなり高いことが分かる。その中でも越前市では圧倒的に**ブラジル人が多く、外国人人口の約 7 割**である。図 6 から分かるように人口は減少しているが外国人は今後も増えていき、外国人が占める割合が高くなることが予想される。

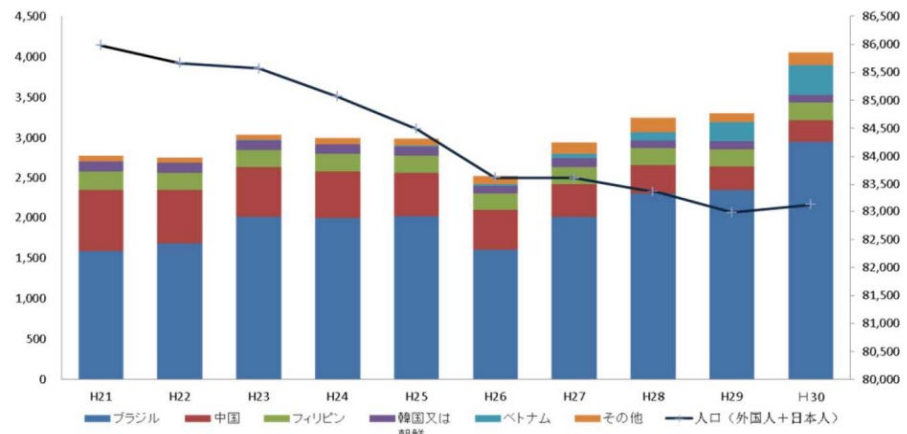


図 6：越前市の外国人人口

H31.3 策定『越前市多文化共生推進プラン(概要)』

##### ・災害ってどれくらい増えているの？

MS&AD ホールディングスによると地震、水害、風害いずれも近年では大ニュースとなるほど深刻化している(図 7)。また福井新聞では 2 年前、歴史的な大雪が降り、私たちに甚大な影響を及ぼしたことも記憶に新しい(図 8)。国道で立ち往生していた車では一酸化炭素による心肺停止の死者が出ており、閉じ込められた村落が続出した。日本人でも不安に感じているが、外国人はさらに不安に感じている。AED は上記の一次災害や二次災害でも利用される。

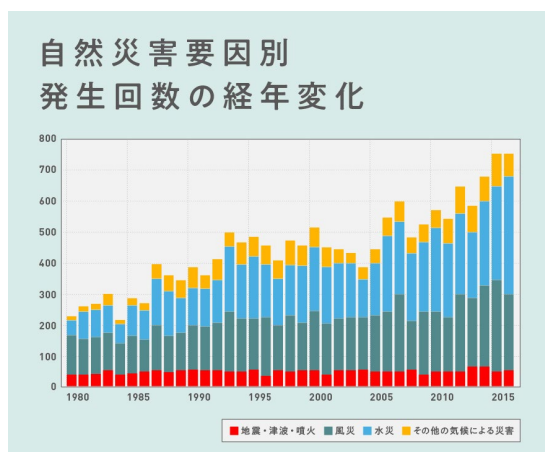


図 7：自然災害要因



図 8：平成三十年 福井豪雪

MS&AD ホールディングス 最終閲覧日:2020 年 12 月 17 日

<https://www.msad-mirai.co.jp/contents/cate05/001/>

福井新聞メディア 最終閲覧日:2020 年 12 月 1 日

<https://mobile.twitter.com/fukuinpmedia/status/96>

### ・AEDってどれくらいあるの？

越前市役所が管理しているだけで 106 個の AED が存在する（図 9）。ホテルやスーパーなど市が管理していない場所にも設置されているのを合わせると、さらに多くの AED が設置されている。まずは越前市役所が管理している AED から活動のアプローチを行っていく。表 1 は越前市が提供しているオープンデータをもとに地区ごとの設置数を示している。

表 1：越前市役所管理の AED 設置数

地区	設置数		
東	10	北新庄	4
西	12	北日野	6
南	7	味真野	5
神山	4	白山	5
吉野	6	粟田部	5
国高	7	岡本	12
大虫	5	南中山	5
坂口	2	服間	4
王子保	7	合計	106



図 9：AED

### ・ブラジル人は AED をどのくらい知っている？ 需要はある？

越前市役所窓口サービス課のアドリアさんにヒアリングしたところ、ブラジルでは“DEA”という表記が主流、また 2015 年度に設置の義務化がされた。ヒアリングの中で AED が分かるブラジル人は多いが、**場所や使い方が分かるブラジル人はほとんどいないことも分かった**。そこで防災危機管理課が開催している外国人市民防災リーダー養成研修に参加してインタビュー調査を行った（図 10）ところ、「AED は知っていたが使うのは初めて」(通訳の仕事を行う 50 代ブラジル人女性)「説明書や動画があったらぜひ役立てたい」(外国人に生活指導を行う 40 代中国育ち日本国籍女性)との意見を頂き、需要が大いにあることを確認できた。



図 10：外国人へのインタビュー

### ・AED の使い方を動画にするのは何で？

消防組合に AED 講習会開催において困っていることを聞いてみた。すると、外国人も AED が使えるようにすべきという問題意識はあり、外国人に向けた AED の講習会を開催したいという思いはある。しかし、外国人も日本語の説明書しか入っていない AED（図 11）を使いこなすことは容易ではない。このような言語の壁が大きく講習会開催までに至っていないとお聞きした。そこで私たちは、越前市国際交流協会と連携し、ポルトガル語の翻訳・字幕を入れて使い方を知ってもらう提案をした。この動画を南越消防組合や越前市役所、運転免許支援所に提供し運用してもらうことで、**持続的にブラジル人が AED を学べる仕組みを作る**。

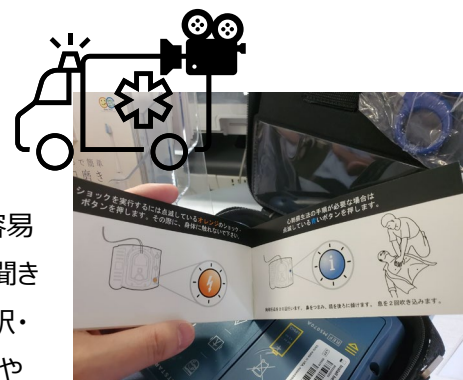


図 11：AED 内の説明書

(3) アイデア実現までの流れ（公開）

アイデアを実現する主体、アイデアの実現に必要な資源（ヒト、モノ、カネ）の大まかな規模とその現実的な調達方法、アイデアの実現にいたる時間軸を含むプロセス、実現の制度的制約がある場合にはその解決策等、アイデア実現までの大まかな流れについて、2 ページ以内でご記入ください。ここでは実現可能性を確認します。





2. アイデアの説明 (公開)

(3) アイデア実現までの流れ (公開)

